



JAPAN URBAN DESIGN
INSTITUTE

都市環境デザイン会議

JUDInews 四国

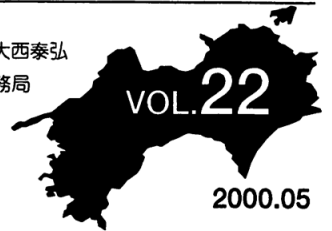
発行日 2000年5月31日 編集・発行人 白石高啓 編集長 大西泰弘

発行所 都市環境デザイン会議 四国ブロック JUDInews四国編集事務局

〒760-0050 高松市亀井町8-12 MO環境設計内

電話 087-831-8662

FAX 087-831-8663



「総会」と第6回「四国の風土再発見環境デザイン紀行」IN海部町／徳島県 地域フォーラム・海辺の景観「山と川と海と漁村集落」

が開催されました

2000年5月13日（土）に地域フォーラム・海辺の景観「山と川と海と漁村集落」… 第6回「四国の風土再発見環境デザイン紀行」IN海部が徳島県海部郡海部町で開催され、21名の参加がありました。当日は建築士会や土木学会などの会議と重なったため当会員の参加はやや少なかったようでした。

また、2000年5月14日（日）は都市環境デザイン会議四国ブロックの総会が午前中に開催され、1999年度までの幹事・ゆにて設計事務所の

白石高啓氏より会計報告があり会議にて承認されました。そして、2000年度から2年間幹事を務める高知工科大学の重山陽一郎氏（幹事は、四国4県持ち回りというこれまでの選出方法に従い、今回は高知県会員より選ばれました）から就任の挨拶があり、今年度事業と雑誌「造景」連載記事執筆についての打ち合わせを行いました。2000年度事業については次項をご覧ください。



▲見学会／母川



▲総会

「都市環境デザインガイドブック」編集会議のおしらせ（7ページの記事参照）

これまで議論を続けてきました「造景」誌連載の編集会議などを下記の通り開催します。ご多忙とは思いますが、できるだけご出席いただき、原稿作成に着手したいと思います。

- 議題 ● (1) 原稿編集／雑誌「造景」への原稿予定
(2) 今年度事業の具体的内容について

場所 ● 高知工科大学 社会システム工学科

日時 ● 2000年6月17日（土）午後1時30～

問い合わせ先 ● 高知工科大学社会システム工学科 重山陽一郎

地域フォーラム・海辺の景観 「山と川と海と漁村集落」

(有) 集環境計画 島 博司

徳島でのフォーラムは、県南の最も小さな人口規模で海部川の河口に位置する海部町（人口約2,800人）の海に見える高台の遊遊NASA（町の宿泊施設）で行われた。「だあ～海部川」（NPO組織）の岡田さん、安芸さん、山田さんに川と町を案内して頂いた。

代表の岡田さんは、「だあー」は、方言で「そうだ!」という意味、ロシア語の「ダー」もそうだと解説、四万十川より海部川は水がきれいと言われ、会が発足。川は、ライフライン、川との暮らしを取り戻しながら近自然工法の考え方を広げていくこと、具体的に何が出来るか考えながら、地域で楽しく住みたい!と話された。

県の栽培漁業センターに勤務する三浦さんは、漁村集落（軒）に住んでいる。沿岸漁業は、魚種が豊富だが海の生産力を頼りに資源を増やしていくが、近年、海水温度が上昇、秋頃には徐々に下がるが年々遅くなり、温暖化で魚類の産卵

期もずれてきている。生活排水の影響も考えられると、沿岸の環境悪化の懸念を表明された。

JUDIの会員であった川口さんは、室戸市にUターンして漁師の見習い中、何も無いが、自然が多い。山があり、川があり、海がある。その中で人の繋がりを大切にしないといけない、こういう所に生活するのも良いと思うようになった、人間的な生活をしている場所だと語る。

13年前に海部町の漁村集落（軒）を調査された建築家の林さんは、日々の生活感がある質素な町並みに心打たれると話す。産業としての漁業が生きているから町並みも残されており、この沿岸部は室戸市まで同じような「ミセづくり」の民家が続く。「ミセ」は、外部であるけれども内部でもある。家屋の延長が外部に繋がる形態、そこに暮らす人々も外に開いているから人情味豊かに家と町と海が繋がっていくと。

いい一日でした。いつか、川口さんが採ってきた魚を食べにいきましょう。



▲母川の河口と太平洋



▲懇親会

元会員からの報告と近況 「海部町にいらしてみて」

高知県室戸市 川口卓行

徳島の島さんから海部町の見学会のお誘いがありました。仕事も辞めのんびりとしていたので少し行くのを迷っていましたが、しかし、島さんの押しに負け行く事にしました。

海部町では海部川と軒浦集落の見学をさせて

いただきました。

海部川では支流の母川から海部川と見学をし、母川では天然記念物のオオウナギが生息している場所やホテルの生息する場所をみせていただき、きれいな川であるということを感じ

じることができました。また、海部川にはダムがないということから水質の良さも感じることができました。日本でも数少ないこのように美しい川をこれからも守らなければならないと感じました。

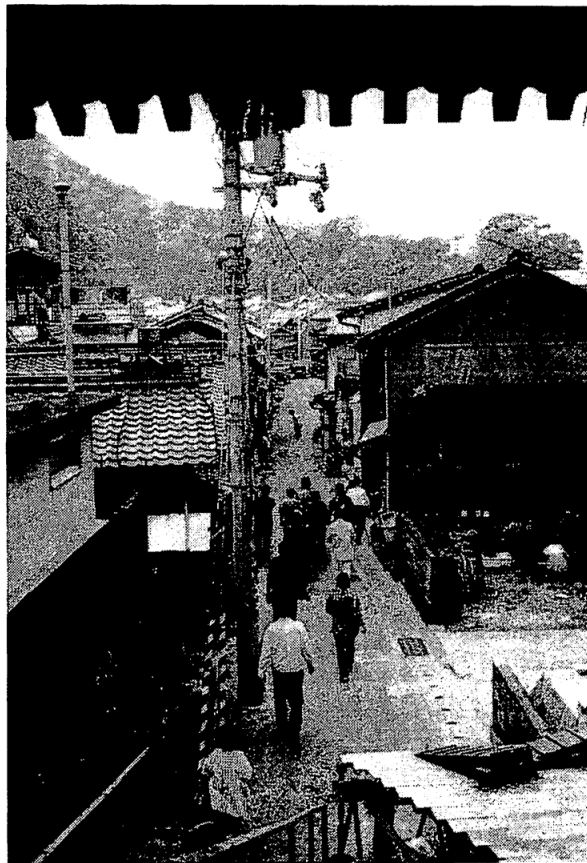
次に、鞆浦集落の見学をさせていただきました。この鞆浦集落には昔からの漁村集落の町並みを見ることができました。またそこに住んでいる方々のつながりを大切にしていることを海部町の方から聞くことができました。この鞆浦集落を見学し、まちはいくら安全できれいにしても住んでいる人がそのまちを大切にす気持ちや守っていく気持ちがないとまちにも人にも元気がなくなるような気がしました。

最後に、島さんの押しがなければこのような思いをすることができませんでした。本当にありがとうございます。また、JUDIの方々、海部町の方々にもありがとうございます。



▲パネルディスカッション（左から3人目が川口氏）

私事ではありますが、昨年いっぱい会社を辞めまちづくりの仕事から離れ、5月いっぱい、JUDIも退会し今は家業である漁業を手伝っています。また、物事を最初からするのも大変ですがいろんなことを経験でき、楽しい日々を過ごしています。会員であるときはいろいろとありがとうございました。これからのJUDIのご活躍を期待しています。



▲鞆浦の漁村集落

「新幹事からの挨拶と新年度事業について」

高知工科大学社会システム工学科 重山陽一郎

1. 御挨拶

6月から幹事となりました高知工科大学の重山です。専門は景観デザインです。若輩者ですが、皆様のご協力を仰ぎながらJUDI四国ブロックの発展を目指していきたいと思っております。よろしく願いいたします。

2. 会員増を目指して

先日の会議でJUDIの会員増を目指そうということになり、準会員、学生会員を設けようと

いうことになりました。話の始まりは「いつも同じような顔触れが集まっている」というものです。JUDIの会費は、特に学生にとっては高額で、おいそれと入会するわけには行きません。しかし、JUDI四国の発展のためには若いメンバーの参加が不可欠であることは明らかです。そのため、準会員、学生会員の会費を安くすることにより、会員増を目指そうと考えます。これらの会員には、金でなく知恵を出していただくことが望ましいと考えます。